

ブラジル福岡県人会
南 美陽 ソフィア

九州スクールオブ ビジネス メイクアップアーティスト科

勉強のこと

私は専門学校九州スクールオブビジネス（KSB）に通っています。その学校は色いろな学科があつて、さまざまな人と情報交換をすることができます。ペット学科、総合ビジネス学科、ファッションビジネス学科、トータルビューティー学科、モデル学科、そして私が勉強しているメイクアップアーティスト学科があります。

学校ではメイクアップの勉強だけではなくヘアアレンジやネイル、皮膚概論、パーソナルカラー、Word、Excel、ペン字、社会性基礎スキル、ビジネス能力、キャリアガイダンスやサービスなども学んでいます。IBF 国際美容連盟認定メイクアップアーティスト国際ライセンス、JMA 日本メイクアップ技術検定、JNEC ネイリスト技能検定試験 1～3級、JNA ジェルネイル技能検定試験、パーソナルカラーコンサルタント日本カラーミーアシーズン、サービス接遇検定（文部科学省後援）、Word 文書処理技能認定硬筆書写検定の資格を取ることができます。IBF（国際美容連盟）は、ニューヨークと東京に拠点を置き、世界各国のメイクアップ・ヘアメイクなどに関わる技術、最新の動きや業界の声などの情報を人材の育成のために発信しています。美容、ファッションに関わりのある現役の国際的アーティストたちが広い視野から支援しています。研修会やセミナーを実施するほか、認定校への指導・応援、講師・インストラクターの養成なども行っています。

学校が始まる前はとても不安でした。「日本人と友達になれるかな?」、「授業は分かるかな?」と考えました。でも、生徒たちはみんな優しくていつも私を助けてくれます。先生たちも私のことを考えて、私に伝わるように分かりやすい説明をしてくれます。まだ100%は分からないし、漢字も多いうえ、知らない言葉がたくさんあります。でも、担任の渡辺先生は私のことを大事にしてくれて、悩みや悲しんでいるときなどは話を聞いて、支えてくれます。とても感謝しています。

KSBでは色いろなイベントもあります。6月には運動会がありました。縄跳びや長距離走や徒競走やバットまわりなどがあつて、久しぶりに運動したのでちょっときつかったけれどとても楽しかったです。10月は学園祭があつて、私のクラスはネイルサロンをしました。ハロウィーンの時期だったので、みんなでそのテーマでメイクと髪飾りをしました。初めて学園祭に参加したのでとても楽しかったです。そして、他の学科の生徒たちの作品も見れたり、とてもよかったです。

メイクアップコンテストにも出ました。1ヶ月前から学校で準備と練習をしました。コンテストの日はとても緊張して手が震えていました。今回は勝てなかったけれど、プロの作品を見て勉強になりました。

学校では、毎週土曜日と日曜日にオープンキャンパスがあります。高校生に学校のことを話したり、メイクアップ学科の紹介をします。そして、モデルになりたい方にヘアアレンジとメイクアップをします。オープンキャンパスは練習ができるのですごく勉強になります。学校はとても大変だと感じます。本を読めない、書けない漢字もたくさん、日本人に当たり前のことが私には分からないこともある、試験が多い、ストレスがたくさん、不安もいっぱいだけ新

しいことを覚えたり、無駄な時間がないと思います。心の優しい人たちとも出会いました。そして、日本に来てからメイクアップアーティストになりたい気持ちが強くなりました。

ブラジル福岡県人会
行徳 さゆり ミリア

福岡大学スポーツ健康科学部

勉強のこと

私は福岡大学スポーツ健康学部で勉強しています。最初はリハビリ関係の勉強を希望していたので、リハビリセンターに行き、リハビリの技術を学び、患者さんとふれあいたいと思っていました。福岡大学でリハビリに関する勉強やセミナーにも参加しましたが、それ以外にも自分の好きなダンスや音楽を使いながらの体操の授業にも参加し、いろいろな経験ができ、授業に対する様々な思いももつようになりました。

大学で学んだことなかで、ブラジルに帰ってから実践してみたいのは、先生が使う JSA ボールエクササイズです。そのボールは体の関節をほぐす効果があり、先生は学生の授業や、地域の高齢者のための教室で、いつも最後のクールダウンに使っています。私もボールをもらい、腰や肩の痛みを感じたときに使うと、いつもとても楽になります。それに先生の実験では、このエクササイズは柔軟性を高める効果があることもわかりました。体の硬い人に勧められるボールだと思いました。

私が一番驚いているのは、最初に希望していた研究が、今は違う内容になったことです。それは、新体操に関わる研究です。私の担当の先生は新体操競技の部長です。最初は見学のみでしたが、数ヶ月たってからバレエレッスンを担当するようになりました。私がブラジルで、バレエの教師をしていたからです。最初はバレエレッスンをどのように新体操に活かせばいいのかわからなくて、とても悩みました。私が知らなかった知識を監督がいろいろ説明してくれたり、意見を言ってくれたりしてとても助かりました。自分がブラジルでしてきたことが、日本でも役に立ちとても嬉しいです。練習を見るうちに新体操の動きに興味をもちました。それで私の研究は新体操の「バックルピボット」の動きを分析することに決めました。「バックルピボット」は回転系の動きで、選手は足を頭の後ろにもって行きながら回転をします。私の研究は、上手な人と下手な人の動きの違いを比べることです。私が立てた仮説は、柔軟性や筋力の違いでバックルの形を取るタイミングが違うことに因るのではないかと考えています。研究方法はカメラを使って、ハイスピードの映像を撮って分析します。



この研究を選んだ理由は、まずはバレエにはない動きだったからです。また、新体操の団体の演技では、5人の選手の回転のスピードが揃わないと最高得点をとれないので、バックルピボットの動きを研究することで、5人の動きが揃うよう指導ができると思ったからです。大学の場合、一人一人が違う場所で学んでいるため癖があり、合わせるのが難しいことが多いので、この研究は役に立つのではないかと考えました。私は最初から日本でしかできない研究テーマを探していましたが、本当はリハビリ関係の論文を書きたかったのですが、今考えてみると新体操は日本ではじめて新たなことだけれど、「動き」に関しては私が最初に希望し

ていたリハビリに関係しています。ゼミでも今回のような研究は初めてするようで、先生方に「新体操部にも良い影響になる」と言ってもらえました。これで頑張るしかないと思いました。研究には、担当の柿本先生だけではなく、他の先生方や、監督、学生が関わっているので、期待に応えられるように良い論文を書けたらと思っています。

ブラジル福岡県人会
行徳 政士 ロニー

九州造形短期大学造形芸術学科

勉強のこと

僕は九州造形短期大学でアニメーションの勉強をしています。自分の研究であるアニメーション以外の授業も受けました。せっかく日本の大学で一年間を過ごすので、ここでしか出来ない体験や勉強もしたいと思いました。陶芸や日本伝統文化(茶道)の授業も受けました。授業が無い時間は、研究作品の制作に力を尽くしています。

前期は映像制作、印刷デザイン、陶芸と日本伝統文化(茶道)の授業などを受けました。映像制作の授業では自分が持っている技術や知識などを存分に使うことができました。ある課題ではCMやMVなどで実際に使われている映像を選びそれを真似ることでした。この課題で自分の持っている映像制作の技術などが試されました。この映像はどのように撮られたのか、どんな場面でコンピュータを使うべきかなどが鍵になりました。最後は先生も納得する作品に仕上がりました。印刷デザインでは、僕が母国の大学で受けていた授業と内容がほぼ同じでしたが、この授業では自分が見たことのない方法で作業を行って、それぞれの長所と短所を比べることが出来たのがとても楽しかったです。

日本伝統文化(茶道)では茶道の裏千家の心得を学びました。茶会の本当の意味を知ってから茶道の奥深さを感じ、もっと美味しく茶道を楽しむことが出来ましたが、一番の楽しみはお菓子を食べることでした。

陶芸の授業は後期でもとっています。この授業での一番の楽しみは、みんなと話しながら作品制作をすることです。とても賑やかで楽しい授業です。陶芸の技術や手入れを学ぶのも楽しいです。前期ではいろいろな体験をしましたが、中でも一番印象に残ったのがテレビ番組で放映するためのアニメーションを制作したことでした。この企画はRKB毎日放送の番組「みんなの青春をのぞき見TVTeen! Teen!」が九州造形短期大学とコラボした企画です。内容は「高校生あるある」をテーマに30秒間のアニメーションで授業の課題としても使われました。僕達はそれぞれの作品を作り、見事テレビで放送されました。とても嬉しかったです。この企画のおかげでRKB毎日放送局の内部を見物することが出来たし、そこで働いている方々とも意見交換でき、一生の思い出になりました。

後期に入って本格的に研究作品の制作が始まりました。後期は研究作品に全力で取り組みたいので、大学の授業は前期ほど取っていません。写真表現、陶芸そしてストップアニメーションの3つの授業を受けることにしました。授業の数は減りましたが大学にいる時間は増えました。写真表現の授業は少し理解しづらいです。写真についての知識があまり無いため、良い写真と悪い写真の区別が難しいです。自分は見てもすぐに意味が分かる写真を好みますが、先生は難しくて意味が深い写真がいいと教えてくださるので少し理解しづらいのですが、少しずつ先

生が言っていることがわかるようになり、写真撮影の腕も少しずつ上がっていると思います。先生にもほんの少し褒められるようになりました。陶芸の授業は前期とかわらず楽しいです。先生との会話はとても楽しいし、他のクラスメイトとの作業中の会話は最高です。後期ではいろいろな作品を作ったので、今では自分が作ったお茶碗でご飯を食べています。ストップモーションアニメーションの授業は大変ですが、楽しいです。ストップモーションアニメーション・コマドリアニメーションとは、ある物体（人形など）を1コマ毎に少しだけ動きを加えカメラで撮影し、その撮影したすべてのコマを順番にある一定のスピードで見ると、それがあたかも動いているように見せる幻想、映画の撮影技術のことです。この技術はクレイアニメーションの「ピングー」や「ウォレットとグルミット」や「ひつじのショー」にも使われました。授業では、これらの技術を実践的に学ぶ方法で進められています。僕の研究作品は、このストップモーションアニメーションを使うことにしました。この技術を選んだ理由は二つあります。一つ目は九州造形短期大学ではストップモーションを行うための設備があること。二つ目はこの技術を自分の作品に使ったことが無いのでいい機会だと思ったからです。制作は、まず企画から始まりました。発表日に間に合うように、今年の9月から来年の1月までのスケジュールを立てました。そうすることで全体的な制作企画の時間を把握することができて、今の作業が全体のどのあたりにいるのかわかりやすくなるのです。しかし、初めて使う技術なのでそのスケジュールを作ることも挑戦でした。その後のアニメーションのストーリーや絵づくりなど、すべての段階を考えて行わないと次のステップに躓くこともあるため、計画的に考える必要性がありました。登場するキャラクターを粘土で作ることも一つの挑戦でした。粘土でキャラクターを作ったこともないのに、ストップモーションの撮影をやりやすくするために作らないと撮影の時に大変でした。このアニメーションはとても大変で気の遠くなる作業ですが、この作業の難しさや大変さを覚悟して、全力で制作を行いたいと思います。知らないことばかりで苦戦していますが、頑張って完成させたいと思っています。この作品は僕にとってこの留学に関わった人たちへの感謝でもあります。皆様のおかげでここまで成長できたというところを見せたいので、僕はこの作品に自分の思いを全力でぶつけ、制作を行って最高のアニメーション作品にしたいと思います。みんなが納得できるような作品にしたいです。

僕は福岡に来て九州造形短期大学で勉強をはじめ、いろいろな出会いがありました。僕の勉強はいろいろな作品を作るだけではなく、日本の文化を感じることに、日本人の生活や考え方を勉強すること、そして何より自分自身を見つめ直すことに、そのすべてが僕を成長するための一番の勉強だと思いました。なのでこの留学は僕の未来へとつながる重大きな勉強になると思います。

ブラジル福岡県人会
重 エリッキ 和男

九州大学大学院人間環境学府

勉強のこと

私は九州大学の人間環境学府建築学科の研究生です。担当は小山先生で、研究室のメンバーは6人です。4年生が3人で、修士の2年生が1人で、さらに韓国人の博士の1年生が1人です。私以外の皆はコンクリートについて研究をしています。私の研究テーマは日本の木造住宅のプレカットという工法についてです。日本に来る前は、プレハブという工法を勉強したかったのですが、小山先生の専門はプレハブではありませんでした。代わりにプレカット工法について教えてくれました。その前はプレカットという言葉を知りませんでした。しかしすぐにこの工法が気に入りました。今の私の目標はブラジルに戻ってから、そのような工法を広めることです。ブラジルには森林がたくさんありますが、木造の家があまりありません。しかし可能性があると思うので、この工法を使う建築に挑戦したいです。

平日は毎日大学へ行きますが、毎日授業があるわけではありません。一週間に日本語の授業が3回、都市計画の授業が2回、そして小山先生の建築材料の授業が1回です。授業は1時間半で、1日1つだけしか授業のない日があるので、その日はほとんど研究室か図書館にいます。その時は自分の研究をします。本や論文を読んだり、ビデオを見たり、自分の論文を書いたりします。他に研究室の友達をよく手伝います。皆は研究のためにたくさん作業を行います。その時に研究室の全員が大学の工場のような場所に集合して、それぞれ活動を行います。私はコンクリートのことはあまり分からないので、重い物をあちこち運んだり、片付けをしたり、掃除をしたりすることが多いです。怪我になるような手伝いは全くありません。私が手伝うことは簡単で、考える作業は少ないのですが勉強になっています。コンクリートの組成や、作り方、試験する方法などを習いました。作業時間は日によって違いますが、6時間かかる場合がよくあります。初めて作業をした時はびっくりしました。そんなに長い時間作業をするのは仕事みたいで、学生たちは偉いなと思いました。ブラジルの大学では4年生でも、研究をしなくてもいいです。たいてい、大学生の時に研究を希望する人は修士や博士に進むことを希望しています。授業や作業がない場合は、研究生のメンバーはたいてい研究室で勉強します。研究室は静かな場所です。皆あまり話をしません。そして、研究室では寝ても良いしご飯を食べても良いです。初めて研究室の人達と会った時はとても緊張しました。私は皆に見られたけれど、何も言わず、何も聞かれませんでした。皆は研究室に来ると、自分の席に座って、パソコンを使います。ここで話してはいけないと思ったので、私は何も話ませんでした。あとになって分かったのは、本当は研究室の中で話しても良くて、小山先生は全然厳しくないけれど、ただ学生たちがあまり話さないだけでした。しかし、今はちょっと変わってきました。皆

が慣れてきたので、たくさんではありませんが、以前よりはたくさん話してくるようになりました。また、2回研究室の全員と居酒屋で飲み会をしました。楽しかったです。

7ヶ月半の間に見学と勉強旅行もしました。見学は佐賀県の窓の工場と福岡市のセメント工場とプレカットの工場と現場を見にいきました。とても素晴らしい経験でした。やっぱり日本とブラジルは違う点が多いです。ほとんどの日本の工場はとても綺麗で、人が少なく、機械がたくさんあります。一番凄いなと感じたのは人々が安全を重視していることです。どこでも、大きい文字で「安全第一」と書いてあって、皆が怪我をしないように安全な服を着ていて、工場のルールを守るので、事故が少ないそうです。

私は約3年前に大学を卒業したので、もう一度大学に通うのは面白いと思いました。外国の大学なのでよりそう感じるのだと思います。いつもブラジルの大学を思い出して、日本の大学の良いところ、悪いところ、不思議なところを比べます。やっぱり日本の大学のインフラは素晴らしいので、羨ましく思います。今までたくさんのことを習いましたことが、帰るまでにもっと勉強しなければなりません。そして、友達も、まだたくさん作りたいと思います。

ペルー福岡クラブ
タケシタ クリスティ

九州産業大学芸術学部

勉強のこと

現在、九州産業大学で写真の勉強をしています。一学期は6科目を履修しました。創作実習、ゼミナール、写真基礎実習（A）、映像基礎実習、映像論、写真基礎実習（B）。創作実習の授業は、照明と商品写真だったのでほぼ毎日ストロボや特別なカメラを使いました。ゼミナールでは意見交換を行ったりします。勉強以外にも色々な活動がありました。例えばバーベキューやソフトボールの試合などをしました。ゼミの授業が終わると、いつも美術館で写真の展示があります。写真基礎実習（A）はカラープリントをしました。写真をフィルムカメラを使って撮影し、暗い部屋で昔ながらの方法で現像をしました。今まで習った中で一番好きな授業です。映像基礎実習では映画撮影をしました。最後のプロジェクトはショートフィルムだったので、博多で撮影をしました。写真基礎実（B）の授業は最初に白黒の映像を撮って、昔風の印刷をしましたが、最後はデジタルカメラを使いました。この授業もすごくたのしかったです。

時々博多、天神、香椎やイベントがある所へ行って写真を撮ります。他の島にも行ったりしました。ただ写真撮影をするだけでなく福岡の色々な所を見ることができます。ほんとうに毎日が楽しいです。写真の勉強は大好きで、初歩をよく勉強しています。ペルーではインテリアデザインの勉強をしていましたが、写真はデザインにとっても必要なことだと思っています。

私の日本語はあまり上手じゃないので時々分からないことがあります。先生と生徒達は皆良い人ばかりでいつも助けてくれます。

今は二学期で3科目を勉強しています。デジタル2、ゼミとフォトショップです。大学で日本語を週に三回勉強しています。日本語の授業で、他の留学生に初めて会いました。その留学生は国際文化学部の人たちを紹介してくれたので国際文化学部の人たちと出会い、今は皆と仲良くしています。日本に着いて間もない頃、英語圏のグループの留学生と集まり、そこで日本人や外国人と知り合いました。10月に英語の合宿で楽しい活動をしました。全部英語だったけれど友達がたくさんできて、お互いに英語と日本語の勉強になりました。

一学期は大学でテニスと陶芸もしました。テニスは楽しくて皆とてもいい人でしたが練習場所が遠かったので行かなくなりました。陶芸の授業は大好きで、お茶碗や湯飲みを作りました。すごく素晴らしかったです。

大学の国際交流センターはすごく親切です。いつも留学生のことを心配してくれます。そして、いつも色々な活動を企画してくれます。例えば6月に一日熊本へ遊びにいきました。そこで牧場へ行ってアイスクリームを作りました。すごく美味しかったです。6月には、AKB48の恋するフォーチュンクッキーの曲に合わせて九産大の学生の皆がビデオの撮影に参加しました。私は踊ってそのビデオに出ました。ほんとうにとっても楽しかったです。9月は海ノ中道で日本人と外国人の留学生のためにバーベキューがありました。また、毎年11月の初めには、大学では香椎祭と言う大きな文化祭があります。色々な店があって、私のゼミのクラスではうどん屋さんをしました。この祭りは4日間あり、誰でも参加できます。九州産業大学はとても良

い大学で、留学生には特別やさしくしてくれます。私はほんとうにこの大学で学ぶことができ
て良かったと思っています。

コロンビア福岡県人会
エルナンデス 黒木 なつみ バネッサ

折尾愛真短期大学経済学部

勉強のこと

折尾愛真短期大学でマーケティングと日本語を勉強しています。折尾愛真 大学は北九州市にあります。寮のある福岡市からは遠いのですこしいへんですが、たのしいです。大学でいつも、留学生と日本人と話さなければなりませんので、私の日本語は上手になっていると思うのでうれしいです。私の先生は、みんな親切です。マーケティングの授業は、そんなにむずかしくありません。一学期は日本語だけ勉強しましたが、9月から違うクラスも受講しました。たとえば マーケティング、オーラルコミュニケーション、商品開発、日本の生活などです。オーラルコミュニケーションでは、いろいろな国のひとたちと日本語で話します。ネパールや韓国や、ベトナムや中国などです。日本でこんなにたくさんのアジアの国の人とはな話することができて、とてもうれしいです。しかし、コロンビア人は私だけです。すこし変なかんじです。私のなかで、今一番大切な授業は商品開発です、商品の価格設定や、商品がマーケットにでるまでの基礎的な知識を学んでいます。ブランドの多い日本で、このマーケティングの勉強はビジネスをするために、とても大切なことだと学びました。日本のマーケティングをみて、すごいと思うこともあります。コロンビアには日本のようなコンビニがありませんので、寮のちかくのコンビニへ行くだけでも学ぶことがたくさんあります。たとえば、パンなどの食べ物の商品は、すべて中が見えるようにパッケージされています。そのように、パッケージや商品の見せかた、広告なども勉強できます。学校では勉強できないことをお店に行くと学ぶことができます。普段の生活でも、日本のマーケティングの勉強ができます。私はそれが勉強になると思うので、お店ではいつも写真を撮ります。これから日本でマーケティングをもっと勉強して日本とコロンビアのちがいをみつけてコロンビアのマーケティングをよくしたいと思っています。残りの4ヵ月は日本語の勉強ももっとがんばって、日本人の友達と日本語で会話ができるようになりたいです。

そして先日私のクラスでプレゼンテーションをしたプロジェクトを紹介します。それはコロンビアとエクアドルにあるフルーツについてです。日本にはまだないフルーツです。そのフルーツの名前はボロホです。私は、日本で生活してみて、どうしてこのフルーツがないのか不思議に思っていました。私の国では、スーパーフルーツといわれ、天然のバイアグラともよばれています。このフルーツについては、たくさんの効果が研究されています。その結果、血のながれをよくしたり、からだを元気にします。

わたしは今、このすばらしいフルーツの開発をしています。いつか日本にもボロホが輸入されるようになり、たくさんの日本人に試してほしいです。これからも、このプロジェクトをがんばりたいです！

ありがとうございます。

在ポリビア福岡県人会
川波 直美

九州観光専門学校カフェ&スイーツ科

勉強のこと

私は、九州観光専門学校のカフェ&スイーツ学科で製菓の勉強をしています。22名のクラスメイトがいます。1クールは皆一緒に実習をして、製菓、パンとカフェドリンクの授業を学んでいました。その他にサービス接遇、ペン字、センスアップとパソコンの授業もあります。実習の時は班に分けられ、1班5~6人で作業をしないとイケなかったのも材料を扱う機会が少なかったです。でも人が多い分、賑やかで緊張することもほぼありませんでした。パンの授業は、生地仕込みの計算が苦手でしたが丸める作業や形作りは好きでした。カフェドリンクの授業も色々なドリンクを作りました。一番難しかったのはエスプレッソに牛乳で絵を書くことでした。自分が思っているように作れませんでした。サービス接遇とペン字の授業は専門学校の色々な学科の一年生と一緒に授業を受けます。サービス接遇の授業は苦手です。漢字が多くて今まで聞いたことの無い言葉が沢山あり、テキストを読んでも意味がほとんど分かりません。友達が説明してくれたり読み方を教えてくれるおかげで授業についていけています。ペン字では漢字も出て来るのですが、漢字より字を綺麗に書くことに重点を置いている授業なので、そこまで難しくはありませんでした。センスアップの授業では挨拶の仕方、電話の応対、敬語の使い方などを勉強します。人によって言葉の使い方が変わり、一つの言葉でも沢山の言い方があるので正しい使い分けがまだよく分かりませんが、とても興味ぶかい授業だと思います。

授業の他に色々な行事もあります。体育祭では専門学校の全生徒が集まり、リレー・ドッチボール・玉入れなど1年生と2年生関係なく混ざって、赤や青色色々なチームに分かれて1日身体を動かしながらゲームをします。最後の優勝チームには賞品があります。夏休み前には、海でバーベキューもしました。自分達でバーベキューを準備して焼いて食べました。その後、海に入ったり砂浜でサッカーやバレーボールをして遊びました。最後に冷やしたスイカを食べてお開きになりました。また、カフェ&スイーツ学科では、イチゴやブドウのそだて方の話を聞いた後、袋掛けを体験させてくれます。専門学校のスポーツ大会もあります、残念ながら大会が始まって、私は怪我をしてしまったので終わりまでいられませんでした。学園祭もありましたが残念ながらまだ入院中で学校に行けなかったのも、体験することが出来ませんでした。友達が言うには忙しかったけれど凄く楽しかったそうです。

2クールに入り、製菓・パン・ドリンク専攻に分かれました。皆と授業が出来る機会がへりました。製菓専攻は10名になり、1班が2人になりました。その分お菓子作りが忙しくなりましたが、材料や道具にもっと触れられるようになったので学ぶ機会が増えました。

3クールに入ると、ペン字の授業が漢字の授業に変わりました。さらにフランス語とデザインの授業が増えました。漢字は頑張っていますが全く分かりません。読み方が変わると言葉の意味も分かりません。フランス語は少しスペイン語と似ている言葉があるので、そこまで難しくはありません。少し発音しにくいくらいです。デザインの授業は、絵や色の違いを勉強します。自分の想像力も大事になってきます。

難しい事は山ほどありますが、それなりに頑張り楽しい学校生活を送っています。難しくても分からない時は、友達が手伝ってくれます。皆とても優しいです。とてもありがたく思っています。心から感謝します。これからも頑張り沢山楽しい思い出を作りたいとおもいます。

メキシコ福岡県人会
棚町 ヘラルド

九州大学大学院地球社会統合科学府

勉強のこと

メキシコで僕の大学の専攻は物理学でしたが、九州大学で自分が選んだ専門は科学の歴史と哲学でした。僕は科学と母国の社会と経済的な問題との関係に興味がありました。それで、そういった問題を広く研究した後で、メキシコの物理学の歴史について卒業論文を書きました。日本の科学は世界的にみてもレベルが高いので、その成功の要因をメキシコの過程と歴史的に比べたいと思いました。そして今回、県費留学生として、僕の興味がある研究ができる九州大学大学院地球社会統合科学府で勉強することになりました。

僕は今ホール・アンドリュース准教授の下で「日本の工業化における大学の物理学の教育の役割」というテーマについて研究しています。他には日本近代通史の授業を受けています。前期には、僕の弱い日本語能力のせいで、日本語を勉強しながらも、歴史の勉強は英語で行いました。統合科学府というのは色々な専門の大学院生が在籍し、自分の勉強のために別の専門の授業を受けることができます。さらに外国人が多いので、授業で世界中の人々の意見と知識を聞くことができ凄く面白いです。また、通史の授業なのに文学やジェンダー研究、政治などの話題も述べられます。僕の研究テーマの次代背景に関連して、興味のある日本の移住者についても少し習っています。

今までの研究結果からわかった事は、日本の科学と技術の成功の原因は独特だということです。16世紀に欧州の人が日本に着いて西洋の知識を日本人に伝えました。その後、幕府の鎖国によって外国の影響が小さくなりました。その間に欧米で科学がかなり進歩しました。幕末からのお雇い外国人のおかげで、日本人は新たな欧米からの知識を学びました。明治時代にそのような風潮が加速すると日本の科学や技術は世界に通用するようになりました。特に旧帝国大学では新しい教育方法や物理学に重点を置いた課程が制定され、政府や産業界、陸海軍に勤めた人が教鞭をとりました。メキシコの教育過程と比べて類似点がありますが、日本の方が50年ぐらい先駆けていたようです。そして、全体的にまだこのテーマについてあまり研究が進んでいないことに僕は気付きました。とにかく難しい日本語で書かかれている資料と論文ばかりなので研究の範囲が限られています。

将来もこの研究を続けたいと思っているので今学期、日本語の歴史の授業を受けています。話し合いは大体分かりますが、授業に出席する前には毎回論文を読まなければならないといけないので少し大変です。内容が複雑で時々古典文法で書いてあるからです。しかし、頑張っています。したがって僕の日本語は少しずつ進歩しています。ですから今回の留学は僕にとって大切な体験になっているし、勉強の目標もちゃんと達成していると思います。

アルゼンチン福岡県人会
津留 アナ パウラ

九州大学大学院歯学研究院

勉強のこと

九州大学歯学研究院での最初の数週間は教師全員の名前を覚えたり、専門用語などを学んだり（まだ難しいです）病院の中を覚えるなど大変でした。知らないことばかりでとても不安でしたが、先生はそれを乗り越える手助けをしてくれました。

最初の頃大学では、研究室の本棚で本を読みたくても漢字も読めないし文章も理解しづらかったので絵だけ見ていました。私は、先生達と研究や授業の内容についてもっと話ができるようになるために日本歯科医学会学術用語集を購入しました。しばらくして私は日本の大学病院では歯科医と歯科技工士はどのように作業を行っているのか勉強したいと思ったので、先生に病院を見学できないかお願いしました。

アルゼンチンでは歯科医と歯科技工士の両方が同じ場所で仕事をするのではないので、とても勉強になります。今は毎日のように病院へ行っています。私はそこですべての作業を一緒に行っているの、日本では実際にどのように仕事をしているのかを見ることができます。とてもいい経験になっています。

先生たちは私に技術を学ぶために補綴（義歯作り）の仕事をさせていただきました。補綴をするのがとても楽しいです。ほとんどのやり方はアルゼンチンと同じですが、日本の方がもっと良くて扱いやすい材料を使用しています。例えば、アルゼンチンでは二種類の補綴があります、一つは、一番多く使われているのはレジン（アクリルのような材料）を固める作業で、2時間もかかります、もう一つは作業自体は20分で終わりますが、アレルギー反応が出る恐れがあるのであまり使われていません。日本ではそのレジンを固める作業が5分で行われる上に、もっと安全な材料を使っています。日本で歯科医と一緒に仕事をしているおかげで全体的に作業を見る事ができます。今までアルゼンチンで行っていた作業をもっと理解することが出来るようになりました。（母国では歯科医と歯科技工士は別々に作業を行っているため）なぜ補綴をやり直す必要があるのかが分からないときがありましたが、一緒に働いたことでそれが理解できるようになりました。また、歯科医と一緒に働き始めたことで患者さんと接する難しさが分かりました。例えば、歯がなくなったため満足した噛み方が出来なくて悩んでいる患者さんもいるし、性格が気難しい人もいれば、口の中をさわられるのを嫌う患者さんもいます。私は歯科医のようにどんな患者さんとも冷静に接することが出来ないの、とてもすごい能力だと思いました。

週に1回は、私は大学で先生の授業のアシスタントをしています。私は学生たちに実習の授業で作業のやり方を教えたりしています。学生たちが私の説明を理解してくれるときが一番うれしいです。

私は、九州大学の大学病院で勉強でき、歯科医と歯科技工士の仕事を見ることが出来て心から感謝しています。

この経験は私の人として、そして歯科技工士としての成長に役に立っていると思います。この留学が終わったら、今年日本で出会った人たちとはもう二度と会えないと思うと、こんなに楽しくて幸せな時間が終わるのがすごくつらいです。

だからもっと皆と良い思い出を作りたいです。この機会に感謝しています。